

### マレーシアの概要

東南アジアの中心に位置するマレーシアは、マレー半島とボルネオ島の一部・サバサラワク州から成り立つ。国土面積はマレー半島部分とボルネオ島部分を合わせ、33万338平方キロメートル。日本の面積の9割弱の広さの土地に、日本の16%の人口が住んでいるような状態。そして国土の約60%が熱帯雨林で覆われている。人口約3000万人のマレーシアは、マレー系・中国系・インド系、そして多数の部族に分けられる先住民で構成される多民族国家である。それぞれの民族が持つ宗教、生活習慣の融合は独特な文化を生み、マレーシアの魅力の魅力を創り出している。また、のんびりとくつろぐことの出来る砂浜、南国の熱帯雨林、魅力的な島々、神秘的で荘厳な山々など自然美に溢れる国でもある。

マレーシアは、13の州と3つの連邦特別区によって成立している。首都はクアラルンプールで人口は167万人以上。「クアラルンプール」には「泥の川が交わる」という意味がある。またペナン、マラッカ、サバ、サラワク州以外の州にサルタンがおり、5年ごとに行われる会議で国王が選出される。国教はイスラム教であるが、信仰の自由を認めている為、多民族国家を反映して仏教、ヒンズー教、キリスト教、道教、シーク教を信仰する国民も多くいる。公用語はマレーシア語（マレー語）であるが、多民族国家の為中国系住民社会では中国語、インド系住民社会ではタミール語が使用されている。また、各民族間で会話をする際は広く英語が使用されているので、旅行では英語が主体となる。国全体が赤道に近く、熱帯雨林気候に属しているマレーシアでは一年を通じて常夏の気候である。年間の日中平均気温は27～33℃で年較差は1～2℃。また、マレー半島のほぼ中央に位置するキャメロンハイランドなどの高原地帯は、一年を通じて常春の気候。降水量は年間降雨量2500mm前後、月平均でも200mmと多いのが特徴。季節は雨季と乾季に分かれるが、どちらの季節でもスコールと呼ばれるにわか雨が降る。雨季でも一日中雨が降り続くことはない。雨の後は気温が下がり、むしろ過ごしやすくなる。気候はマレー半島西海岸／東海岸で異なり、また半島/ボルネオ島でも異なる。マレーシアはイスラム教国であるが、旅行者に対して服装の制限はない。しかし、レストランや大学内では、冷房が効きすぎている場合が多々あるので、羽織るものを持つ必要がある。また、モスク内を見学する際にはミニスカートやノースリーブは避け、着用を義務づけられている場合には、スカーフを身につけなければならない。